

## 2011年度（平成23年度）事業計画書

（2011年4月1日 ～ 2012年3月31日）

### 1. 事業の概要

本年度は、当財団「寄附行為」第4条第1項の「生命科学にかかる科学技術に関する研究に対する助成」、同条第4項の「生命科学にかかる科学技術に関する国際交流に対する助成」の各事業、同条第2項の「生命科学にかかる科学技術に関する普及啓発」及び同条3項の「生命科学にかかる科学技術に関するすぐれた業績に対する表彰」を実施。

### 2. 事業の内容

#### （1）生命科学にかかる科学技術に関する研究に対する助成

この助成には、特定研究助成と一般研究助成の二種類。

##### ① 特定研究助成

- 1) 2011年度の特定研究助成は、財団指定研究テーマ「生体成分・細胞・合成薬剤等を組み入れた Combined Devices（複合的・複合型医療機器）」に関する基礎研究及び応用研究を対象に募集。研究内容は独創的・基盤的研究とし、2～3名程度の共同研究とする。採択件数は1～2件。
- 2) 2008年度特定研究助成「我が国発 世界標準の生体完全吸収性ナノテクDDSステントの開発」九州大学大学院 医学研究院 江頭健輔先生への助成は終了。
- 3) 2009年度特定研究助成「生物学的ペースメーカーの開発～洞結節・刺激伝導系の再生～」千葉大学大学院医学研究院（現；大阪大学大学院 医学系研究科）の小室一成先生への最終年度（2012年度）の助成。
- 4) 2010年度採択の特定研究助成「大型骨欠損治療のイノベーション実現にむけた橋渡し研究」大阪大学大学院 医学系研究科 吉川秀樹先生への助成を開始予定。
- 5) これら3件の研究テーマへの助成金額は、特定研究助成1件当たり1,000万、2011年度は計3,000万円の助成金を贈呈。

##### ② 一般研究助成

- 1) 2011年度の一般研究助成は、「医療用先端材料（ナノテク、DDS等も含む）」、「低侵襲・QOLの向上に役立つ診断・治療法」、「再生医療（機能再建、人工臓器等も含む）」、「診断・治療を目的とした生体成分・生理活性物質」、「予防医療（感染制御、統合医療等も含む）」「医療経済」の既存6研究分野に加え、新規に「看護（チーム医療、看護技術、地域連携等）」、「リハビリテーション（QOL向上も含む）」の2分野を加えた8分野とし、独創的・基礎的研究を行っている研究者を対象に選考委員会と特別評価委員にて計18件採択し、1年間助成。
- 2) これらの研究テーマへの助成金額は1件当たり100万円で2011年度は1,800万の助成金を贈呈。

特定、一般研究の申請期間は2011年6月1日から6月末日までとし、選考は9月開催予定の選考委員会等にて実施。助成金の贈呈は、原則として2011年12月頃に助成先指定の金融機関に振込。なお、助成金は、助成先の受理方法に従い、贈呈。

### ③ 研究助成の成果報告

- 1) 3年間の助成期間が終了した特定研究助成「我が国発 世界標準の生体完全吸収性ナノテクDDSステントの開発」九州大学大学院 医学研究院 江頭健輔先生については成果報告書提出と成果報告会実施。
- 2) 2010年度採択の一般研究助成の成果報告は、1年間の助成期間終了後、財団指定用紙に従い報告書の提出を義務付け。後日、財団にて研究報告書集を作成。

## (2) 生命科学にかかる科学技術に関する国際交流助成に対する助成

### ① 国内学会・研究会・シンポジウム等への集会助成及び招聘助成並びに海外出張助成

生命科学にかかる素材、生物工学、生体防御機構、生体計測、病態生化学等各分野の科学技術に関する研究を目的とした2011年度中に実施される国内開催の学会・研究会・シンポジウム等での集会、招聘費用及び海外学会等への出張費用の一部を助成。

- 1) 当財団の理事・評議員の推薦が必要。
- 2) 応募・推薦は、2011年4月1日から30日の期間で受付を実施。  
集会助成の場合は、募金趣意書、プログラム等を添えて応募。また、出張及び招聘の場合もプログラム等を添えて応募。
- 3) 選考は5月に実施。
- 4) 助成金の贈呈は、選考後随時理事長の決裁を受け、助成先（助成者）指定の金融機関宛振込。
- 5) 報告は、集会・招聘の当該学会・研究会・シンポジウム等終了後、出張帰国後、1ヶ月以内にその経過と成果につき、報告書の提出を義務付け。
- 6) 助成件数と助成金額

助成件数（目安）	1件当たりの助成金額	総助成金額
15～20件/年	20～50万円	400万円/年

### ② 国内開催学会等へのアジア地域研究者招待助成

生命科学のかかる素材、生物工学、生体防御機構、生体計測、病態生化学等各分野の科学技術に関する研究を目的としたもので、国内で開催される学会等へアジア地域の研究者を対象にして学会等への招待費用の一部を助成。

- 1) 対象はアジア地域（中東も含む）で今後活躍が期待され、優秀な研究を行っている研究者（原則、若手で45歳以下）で、講演者には限定しない。
- 2) 当財団の理事・評議員の推薦が必要。
- 3) 応募・推薦は、2011年4月1日から30日の期間で受付を実施。
- 4) 助成金の贈呈は、選考後随時理事長の決裁を受け、助成先（助成者）指定の金融機関宛振込。
- 5) 報告は、当該学会・研究会・シンポジウム等終了後、1ヶ月以内にその経過と成果つき、報告書の提出を義務付け。

#### 6) 助成件数と助成金額

助成件数	1件当たりの助成金額	総助成金額
10件/年	20万円	200万円/年

### ③ 海外開催学会・研究会・シンポジウム等の共同主催者への助成

生命科学のかかる素材、生物工学、生体防御機構、生体計測、病態生化学等各分野の科学技術に関する研究を目的としたもので、2011年度中に海外で開催される学会、研究会及びシンポジウム等へ日本人共同主催者として指名され、会合への協力費が必要な場合、その費用の一部を助成。

- 1) 当財団の理事・評議員の推薦が必要。
- 2) 申請は本人とする。
- 3) テーマは下記、当財団の助成テーマ範囲内とし、特に年齢は問わない。
  - イ. 生体成分・細胞・合成薬剤等を組み入れた Combined Devices (複合的・複合型医療機器)
  - ロ. 医療用先端材料 (ナノテク、DDS 等も含む)
  - ハ. 低侵襲・QOLの向上に役立つ診断・治療法
  - ニ. 再生医療 (機能再建、人工臓器等も含む)
  - ホ. 診断・治療を目的とした生体成分・生理活性物質
  - ヘ. 予防医療 (感染制御、統合医療等も含む)
  - ト. 医療経済
  - チ. 看護 (チーム医療、看護技術、地域連携等)
  - リ. リハビリテーション (QOL向上も含む)
- 4) 応募・推薦は、2011年4月1日から30日の期間で受付を実施。
- 5) 助成金の贈呈は、選考後随時理事長の決裁を受け、助成先(助成者)指定の金融機関振込。
- 6) 成果の報告は、当該学会・研究会・シンポジウム等終了帰国後、1ヶ月以内にその経過と成果につき、報告書の提出を義務付け。
- 7) 助成件数と助成金額

助成件数	1件当たりの助成金額	総助成金額
4件/年	100万円	400万円/年

### ④ 国内開催小規模研究会等への助成

生命科学のかかる素材、生物工学、生体防御機構、生体計測、病態生化学等各分野の科学技術に関する研究を目的としたもので、国内開催の小規模研究会(医学/工学/経済学等境界領域)への集会及び招聘助成。

- 1) 対象となる小規模研究会の内容としては下記のようなもの
  - イ) バイオマテリアル、バイオエンジニアリング、医療社会学、医療経済学等
  - ロ) 申請は会の主催者とする
- 2) 当財団の理事・評議員の推薦が必要。
- 3) 応募・推薦は、2011年4月1日から30日の期間で受付を実施。
- 4) 助成金の贈呈は、選考後随時理事長の決裁を受け、助成先(助成者)指定の金融機関

宛振込。

5) 報告は、当該小規模研究会終了後、1ヶ月以内にその経過と成果につき、報告書の提出を義務付け。

6) 助成件数と助成金額

助成件数	1件当たりの助成金額	総助成金額
4件/年	100万円	400万円/年

### (3) 中高生向け生命科学 Web サイト関連業務

#### 理念

生命科学の時代にあつて、次世代を担う中学・高校生などの若者の理数離れが進んでおり、教育現場からも先行きを心配する声があがっている。こうしたことから、生命科学を含めた科学分野の教育の充実を図り、将来の人材を発掘すること、また若者がネットを用いた調べ学習等を活用する機会が多くなっていること等から、中高生を対象として生命科学分野の情報、普及啓発を目的としたWebサイトを開設し、生命科学教育の一助とする。

「いのちの不思議」を全体のテーマとして、2009年9月25日にスタートした中高生向けWebサイトは2011年1月末まで、動画サイト「森の教室」で基礎的再生医療や基礎医学を中心として全9回、「研究者インタビュー」で全9回、「いま注目の最先端研究・技術探索」で全9回、各々シリーズで掲載しており、これまでの質問数も70件強となっている。広報では全国中高等学校への季刊誌配布、Webサイト(Yahoo・Google)のリスティング広告等も行い、アクセス数は延べ約11万件になっている。2011年度の「森の教室」では、実際の再生医療の臨床について取り上げ、より具体的な話をしてゆく予定である。また、研究者インタビューも好評であり継続し、また最先端研究・技術探索はよりポイントを絞って内容も含め再考してゆく。さらに25周年の記念として、これまでのインタビュー等のまとめた小冊子の出版も行う計画である。2011年度費用は1500万円。

### (4) テルモ国際賞設立他(財団25周年記念を事業開始として)

#### 【国際賞の設立と授賞式の開催準備】

特定の生命科学分野での世界中の研究者に優れた研究論文を投稿してもらい、審査を経て、国際賞(正賞、副賞)を授与し、合わせて受賞者も含めた講演会を開催する。

今回のテーマは「再生+バイオマテリアルの複合分野での研究」で、2011年度は5名の選考委員にて審査されて決定した受賞者への対応等を中心に、授賞式での国内の発表者の選考や会場・プログラム等検討を行う予定である。授賞式の日程は2012年7月28日(土)、帝国ホテルを予定している。2011年度費用は300万円。なお、イベント関係は日本コンベンションサービス(株)に依頼。2年に一度開催(2012, 2014年)。

#### 【財団賞(仮称の国内賞)の設立準備】

財団賞(仮称)を新設し、毎年、授賞式を行う。受賞分野は毎年異なり、一般研究助

成テーマに従う。応募はこれまでに贈呈された先生方に限り、再度その後の成果をまとめてもらう。選考は従来の選考委員会で行う。国際賞が開催される年のテーマは「再生医療（人工臓器も含）」とし、その他の年には「診断・治療を目的とした生理活性物質」「医療用先端材料」「低侵襲・QOL向上」「予防医療・医療経済」とする。受賞者は1～2名とし、その講演は、贈呈式または国際賞授賞式にて行う。

2011年度総費用は500万円。

#### (5) 贈呈式

2011年度研究助成対象者を一堂に会し、贈呈式と講演会を行う。

時期は2012年3月とし、基本的に出席は申請者とするが、都合がつかない場合のみ、代理出席も可とする。また、2011年度採択の特定研究の発足会もこの場にて行う。2011年度費用は250万円。

#### (6) 助成事業の主な業務及び日程

助成事業に付帯する業務	日 程 (予定)
2011年度 特定・一般研究助成、国際交流助成の研究施設への応募依頼・HP改訂	2011年3月1日～31日
2011年度 国際交流助成の受付・締切り	2011年4月1日～30日
2011年度 特定・一般研究助成応募受付・締切り	2011年6月1日 ～ 6月30日
2008年度採択 特定研究助成成果報告会 開催	2011年7月～8月
2011年度 研究助成 選考委員会開催	2010年9月
2011年度 研究助成費の贈呈	2011年12月
2011年度 贈呈式	2011年3月15日前後
2011年度 研究助成 採択申請書集 作成	2011年8月

### 3. 管理業務

主な管理業務の内容	日 程 (予定)
2010年度 事業報告・財務諸表（案）作成	2011年4月下旬
第49回 定例理事会・評議員会 開催	2011年6月中旬
2010年度 事業報告書・財務諸表報告書提出 (文部科学省)	2011年6月末
2010年度 事業報告書・財務諸表 HP掲載	2011年7月中旬
文部科学省の实地調査 (2年毎)	2011年10月予定
特定公益増進法人の認可取得のための申請 (3年毎)	2011年11月予定
2012年度 事業計画・収支予算（案）作成	2011年2月中旬
臨時理事会・評議員会開催 (公益認定申請の件)	2011年10月
第50回 定例理事会・評議員会 開催	2011年3月初旬
新公益法人制度改革対応として、公益法人としての認定申請	2011年10月～11月

以上